

夏かぜ症候群(エンテロウイルス感染症)

「夏かぜ」をおこすウイルスは、エンテロウイルス(コクサッキー、エコーウイルスなど)で、発熱や発疹(ブツブツ)が出やすいという特徴があります。またまれに無菌性髄膜炎や脳炎を起こすことがあります。代表的な病気として、手足口病、ヘルパンギーナ、プール熱などがあります。

(1)手足口病

原因はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスで、手と足と口に発疹(水疱)が出るのが特徴です。発熱は軽いことがほとんどですが、口の中の発疹のため痛くて食欲がなくなり、よだれも多くなります。約1週間で治りますが、最近、脳炎など重症化する例が報告されています。また、最近では1年中みられることがあります。飛沫感染や経口感染で移ります。



平成23年度にはコクサッキーA6による手足口病が流行しています。通常の手足口病と違い発疹がイボ状に大きなものもみられ、部位も口周囲、肘・膝を中心とした手足、お尻周辺、その他体にもみられます。掻きこわしてとびひになったり跡が残ったり皮がむける例もあります。



(2)ヘルパンギーナ

原因はコクサッキーウイルスなどで、突然39℃以上の高熱が出て、のどの奥に水疱ができます。痛みが強いため食欲がなくなり、よだれが多くなったりします。熱は2~3日で下がりますが、治るまでに約1週間位かかります。



(3)咽頭結膜熱(プール熱)

原因はアデノウイルスで、発熱とのどの痛みの他に、結膜炎(目が充血してまっかになる)を伴います。夏にプールを介して流行することがあるためプール熱と呼ばれますが、実際は普通に接触するだけで移ります。38℃以上の高熱が3~7日続きますが、約1週間で治ります。

※ (1)(2)(3)ともに、発熱に対する看護と、食事に気を付けることが大切です。発熱に関しては、「発熱について」のパンフレットを参照して下さい。食事は固形物が食べにくくなりますので、流動食や水分をたくさん取らせるようにして下さい。スポーツドリンクなども良いでしょう。(もちろん食べられれば何でも結構です。)

※ なお、「夏かぜ」は髄膜炎や脳炎を起こしたりすることもあるので、注意が必要です。高熱の他に、嘔吐や頭痛がひどい、けいれんや意識障害がある、非常に不機嫌になる、顔色が悪いなどに気づいたら、すぐに当院を受診して下さい。

※ 「夏かぜ」の一部は学校伝染病に含まれますが、不顕性感染が多く、感染する期間がはっきりしないので、登園(登校)禁止にする意味(必要)はあまりありません。特に手足口病は症状があっても登園(登校)可能です。ただし、ヘルパンギーナやプール熱などは発熱や結膜炎などの症状がある間は休ませましょう。いずれの病気も必要があれば当院で「治癒証明書」を出します。